

◆ 今週のコメント

- ・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が3,629例あり、本年の累積報告数は67,970例になりました。本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- ・ **アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)**の報告が1例(40歳代男性)(第10週追加報告分)ありました。本年の累積報告数は2例になりました。
- ・ **インフルエンザ**は、市内69の定点医療機関から報告はありませんでした。全国でも報告数は極めて少なく(今週は定点医療機関数約5,000から17例の報告)、現在のところ流行の兆候はありません。京都市のインフルエンザの発生状況は下記のホームページをご参照ください。
○京都市のインフルエンザの発生状況(衛生環境研究所)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>
- ・ **小児科定点把握感染症**の推移は、前週までと大きな変化はありません。本市及び全国平均から流行の兆候が見られるものはありませんが、たとえば感染性胃腸炎は大分県(9.72)、鹿児島県(8.11)、愛媛県(7.51)など比較的高い地域もあります。新型コロナウイルス感染症の影響により、例年と異なる流行動態がみられる場合がありますので、今後とも注意が必要です。

◆ 今週のトピックス:<結核>

3月24日は世界結核デーです。今年のテーマは“Invest to End TB. Save Lives”で、「結核の終息に向けて頑張ろう。命を救おう。」といった意味です。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ **新型コロナウイルス感染症** 3,629例【1月以降の累積報告数67,970例】
- ・ **五類:アメーバ赤痢** 1例【1月以降の累積報告数 2例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

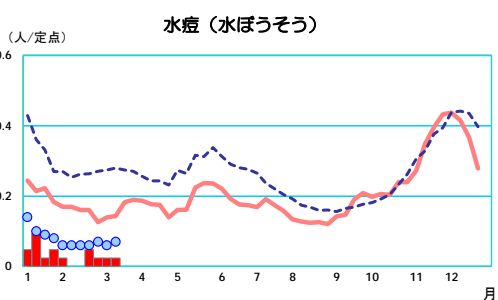
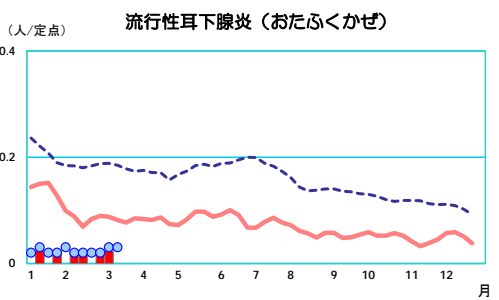
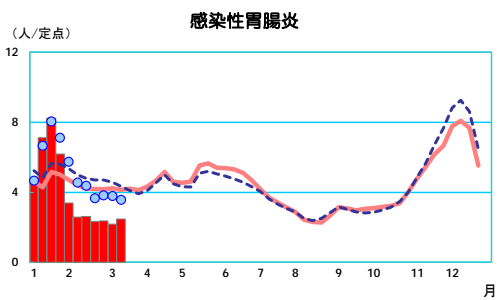
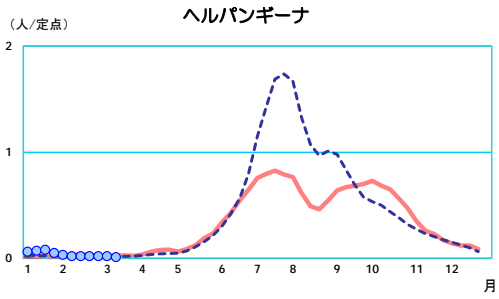
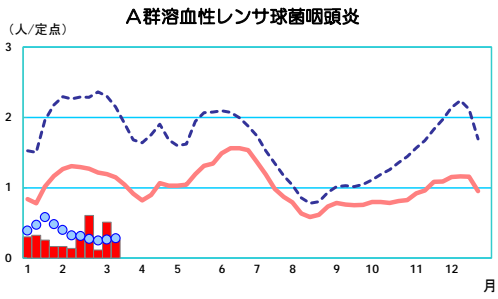
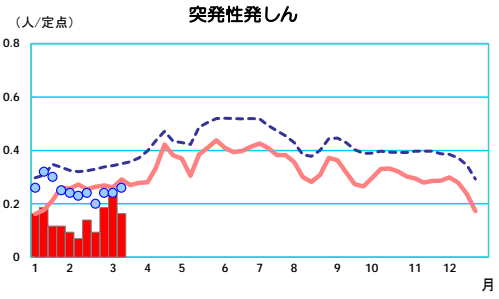
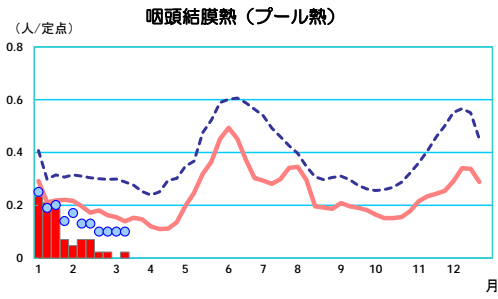
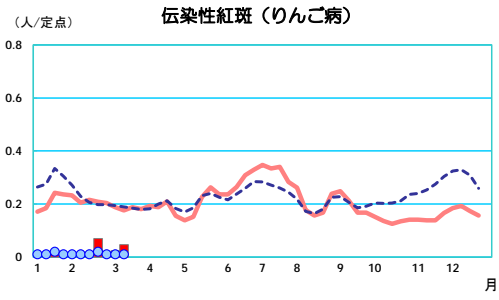
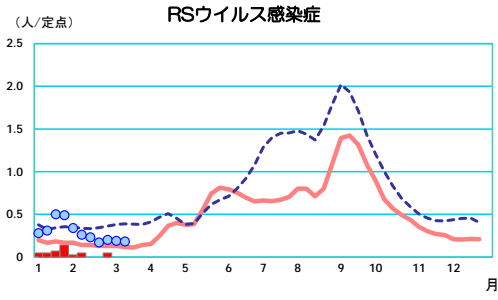
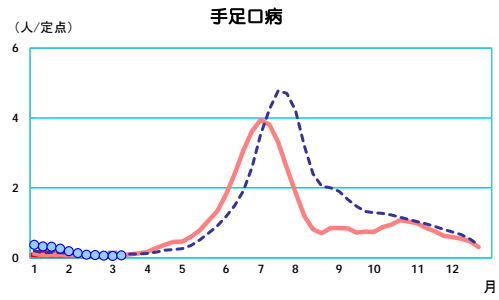
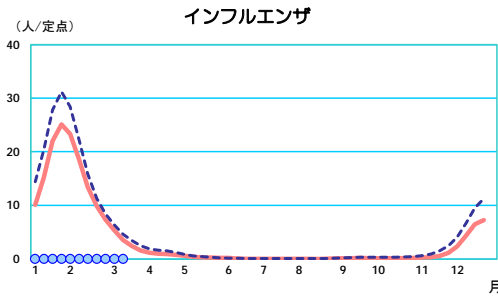
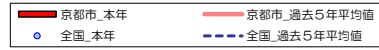
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.47	106
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.26	11
	③ 突発性発しん	0.16	7
	④ 伝染性紅斑	0.05	2
	⑤ 咽頭結膜熱	0.02	1
	⑤ 水痘	0.02	1
	⑤ 手足口病	0.02	1
眼科	流行性角結膜炎	0	0

【次ページ以降の主な内容】

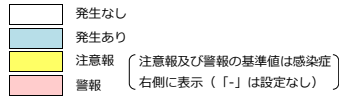
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス:<結核>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2022年3月23日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

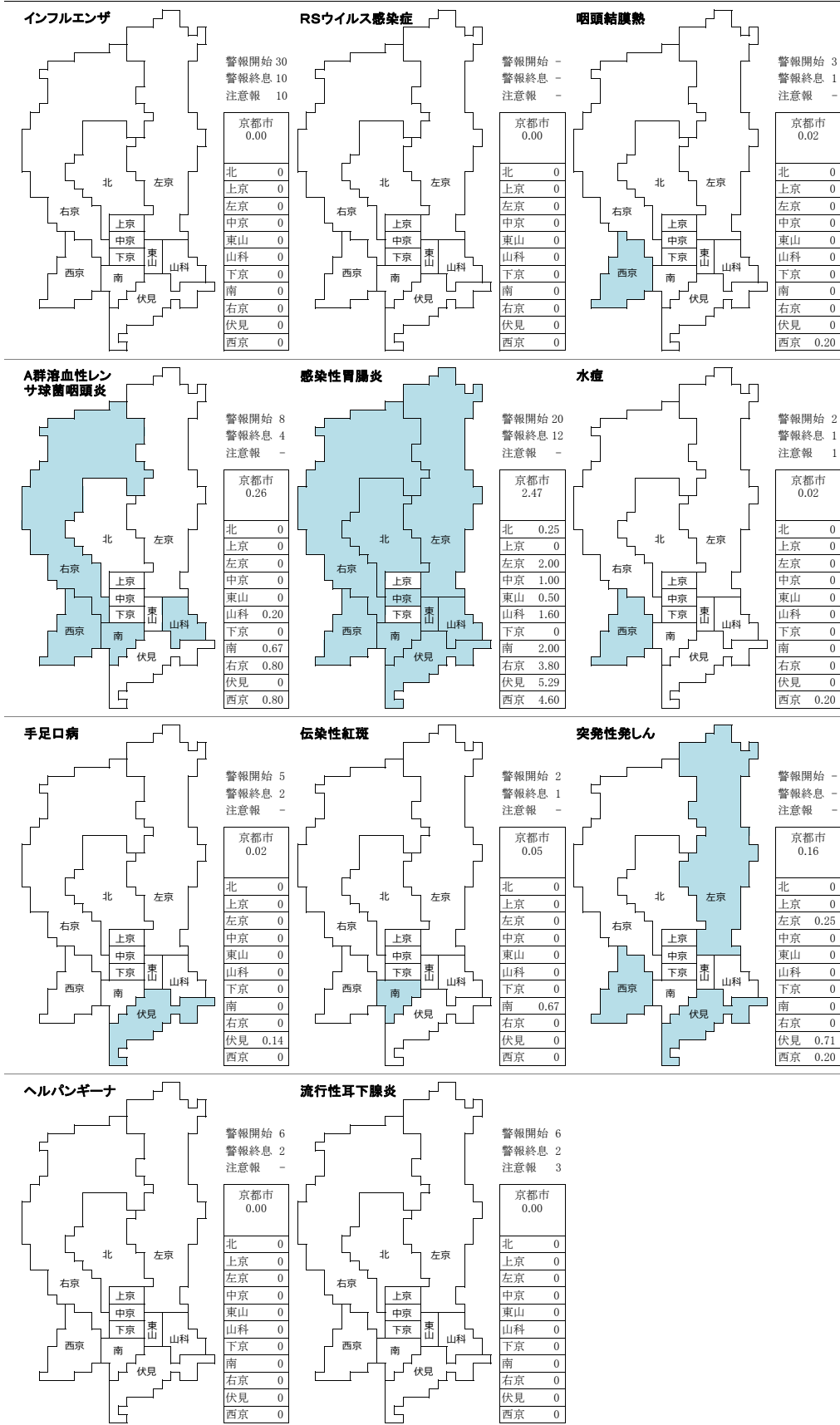
インフルエンザ[※]及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2022年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2022年第11週】



定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
 したがって、定点当たり報告数は医療機関の立地条件や規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第11週(3月14日～3月20日)トピックス: <結核>

3月24日は世界結核デー(注1)です。今年のテーマは“Invest to End TB. Save Lives”で、「結核の終息に向けて頑張ろう。命を救おう。」といった意味です。これにちなみ、世界及び本市の2020年までの結核の状況についてまとめました。

WHOによると、2020年に世界で新たに結核を発病した人が年間1,000万人、結核で亡くなった人が150万人と報告されています(注2)。主に発展途上国で結核罹患率(人口10万対)が高く、多くの先進国では低ま延国の水準である10を下回っています。日本は結核罹患率が10.1となっており、先進国の中では高い値を示しています(表1及び図1)。

本市の2020年の結核罹患率は11.8で、前年の15.1から3.3ポイントと大幅に減少し、2018年に策定した第三次京都市結核対基本指針の目標値「12.0以下」を達成しました。しかしながら、依然として全国の10.1より高い状態です(図2)。罹患率を年齢階級別にみると、高齢者で高く、70歳代で22.2、80歳代で43.9、90歳代では125.7となっています(図3)。これは、高齢による免疫力の低下で、過去に結核が流行していた頃に罹患歴のある方が発病することがあるためです。

結核の主な感染経路は気道を介した飛沫核感染であることから、患者の早期発見・早期治療が重要です。このことは本人の重症化を予防するだけでなく、周囲への感染拡大を防ぐこととなります。特に抵抗力の弱い乳幼児への感染は、大半が家族等の身近な患者からの感染とされています。咳が2週間以上続く、急に体重が減る、身体がだるい等の症状があれば、医療機関を速やかに受診しましょう。

京都市では、市内在住40歳以上の人を対象に、定期的に結核検診を無料で実施しています。場所は各区役所・支所にて、事前予約制となっています(2021年4月から対象年齢が変更になりました)。また、65歳以上の人は、年1回の結核検診の受診が感染症法により義務付けられています。早期発見のため、必ず検査を受けましょう。

○京都市情報館ホームページ「結核検診について」

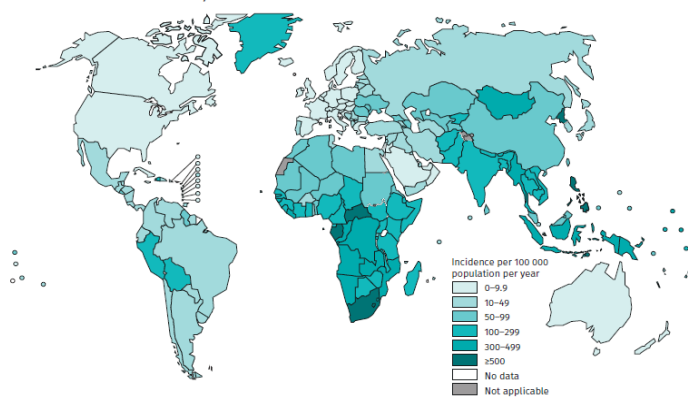
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000121872.html>

(注1)1882年に細菌学者ロベルト・コッホが結核菌を発表した日にちなみ、1997年の世界保健総会で制定されました。

(注2)WHO: Global Tuberculosis Report 2021 p.1(<https://www.who.int/teams/global-tuberculosis-programme/tb-reports/global-tuberculosis-report-2021>)
2022年3月23日閲覧)

(図1) 2020年推定結核罹患率*1

Estimated TB incidence rates, 2020



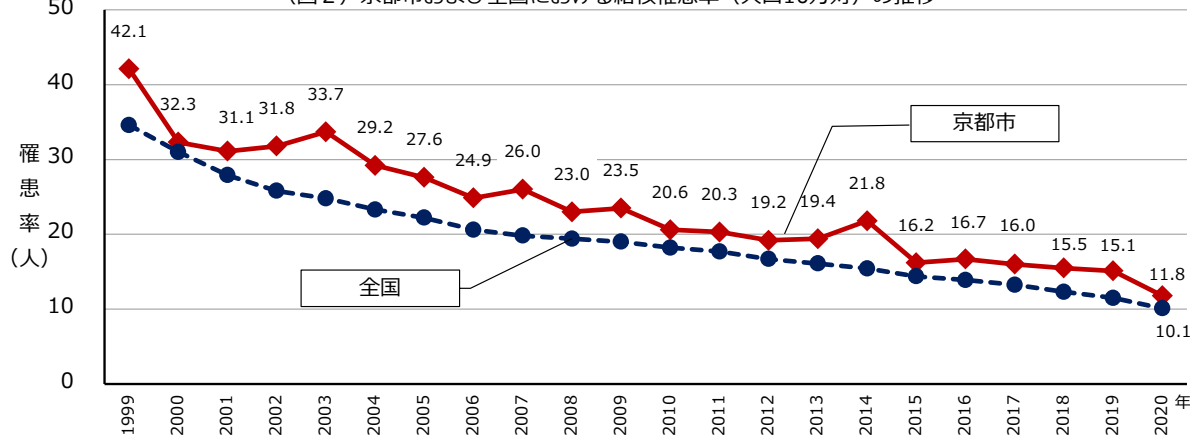
(表1) 諸外国と日本の結核罹患率*2

米国	2.4	日本	10.1
スウェーデン	3.6	ブラジル	45
オランダ	4.1	シンガポール	46
デンマーク	4.9	韓国	49
ドイツ	5.5	中国	59
カナダ	5.9	タイ	150
イタリア	6.6	ベトナム	176
英国	6.9	インドネシア	301
オーストラリア	7.3	ミャンマー	308
フランス	8.2	フィリピン	539

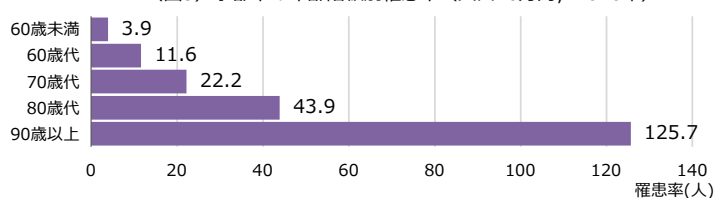
諸外国のデータはWHO:Global Tuberculosis Report 2021 より

日本のデータは厚生労働省:2020年結核登録者情報調査年報集計結果より

(図2) 京都市および全国における結核罹患率(人口10万対)の推移



(図3) 京都市の年齢階級別罹患率(人口10万対, 2020年)



(*1)WHOホームページ掲載の
Global tuberculosis report 2021
(<https://www.who.int/teams/global-tuberculosis-programme/tb-reports/global-tuberculosis-report-2021>)から引用

(*2)WHOホームページ <https://www.who.int/teams/global-tuberculosis-programme/data>よりWHO TB burden estimates(CSVファイル)を入手し加工(2022年3月22日入手)

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第11週

疾病,行政区別報告数

2022年3月14日～2022年3月20日

データ入手日:2022年3月23日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)	
男女合計																			
北	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-						
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
左京	-	-	-	-	8	-	-	-	1	-	-	-	-						
中京	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-						
山科	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-						
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
南	-	-	-	2	6	-	-	2	-	-	-	-	-						
右京	-	-	-	4	19	-	-	-	-	-	-	-	-						
伏見	-	-	-	-	37	-	1	-	5	-	-	-	-						
西京	-	-	1	4	23	1	-	-	1	-	-	-	-						
京都市計	-	-	1	11	106	1	1	2	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)	
男女合計																			
北	-	-	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-						
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
左京	-	-	-	-	2.00	-	-	-	0.25	-	-	-	-						
中京	-	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-						
山科	-	-	-	0.20	1.60	-	-	-	-	-	-	-	-						
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
南	-	-	-	0.67	2.00	-	-	0.67	-	-	-	-	-						
右京	-	-	-	0.80	3.80	-	-	-	-	-	-	-	-						
伏見	-	-	-	-	5.29	-	0.14	-	0.71	-	-	-	-						
西京	-	-	0.20	0.80	4.60	0.20	-	-	0.20	-	-	-	-						
京都市計	-	-	0.02	0.26	2.47	0.02	0.02	0.05	0.16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第11週

年齢階級, 疾病別報告数

2022年3月14日～2022年3月20日

データ入手日:2022年3月23日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		11	-	-	-	1	2	4	-	1	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		106	-	4	15	21	9	9	4	7	5	3	-	13	5	11	-	-	-	-	-	-
水痘		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
手足口病		1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		2	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		7	-	1	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.02	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.26	-	-	-	0.02	0.05	0.09	-	0.02	0.05	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		2.47	-	0.09	0.35	0.49	0.21	0.21	0.09	0.16	0.12	0.07	-	0.30	0.12	0.26	-	-	-	-	-	-
水痘		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.02	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		0.05	-	-	-	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.16	-	0.02	0.09	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第11週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2022年3月23日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	1	-	1	-	-	-
RSウイルス感染症	2	-	-	2	-	-
咽頭結膜熱	3	3	1	1	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	12	26	5	22	11
感染性胃腸炎	111	113	100	102	94	106
水痘	-	-	2	1	1	1
手足口病	1	1	3	1	8	1
伝染性紅斑	-	-	3	-	1	2
突発性発しん	3	6	4	8	10	7
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	1	-
流行性耳下腺炎	1	1	-	1	1	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	2	1	-	1	-
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	128	138	141	121	139	129

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	0.01	-	0.01	-	-	-
RSウイルス感染症	0.05	-	-	0.05	-	-
咽頭結膜熱	0.07	0.07	0.02	0.02	-	0.02
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.14	0.28	0.60	0.12	0.51	0.26
感染性胃腸炎	2.58	2.63	2.33	2.37	2.19	2.47
水痘	-	-	0.05	0.02	0.02	0.02
手足口病	0.02	0.02	0.07	0.02	0.19	0.02
伝染性紅斑	-	-	0.07	-	0.02	0.05
突発性発しん	0.07	0.14	0.09	0.19	0.23	0.16
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	0.02	-
流行性耳下腺炎	0.02	0.02	-	0.02	0.02	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	0.20	0.10	-	0.10	-
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	2.97	3.36	3.35	2.81	3.31	3.00

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。